

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

文久雜誌

十

経済学
研究
80
273

70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80

朱書



経済

36111

東京大学
経済学
80
273

前編之十

文久三年癸卯九月より十七日まで

轉接其所定者雖據海濱及穀米之產
斗石之時亦未暇運送後純於居民人民飢餓
而救助乃運送開通云々

所定法亦極其利源水流未暢因橋之撤列字
治橋近場割也即後即多之昭正原勘考云々
雖有云々者年一後當送云々云々云々云々
成印所云云々云々

所定法云々

常因易也山川道路之利源云々云々
所定法云々云々云々云々云々云々云々
坂山通也云々云々云々云々云々云々云々

左箱方不委細
上取公不且別
為知於亦達

山崎道

八幡道

松方道

但是是之、朱首台、所重、少之

淀邊道

洞ヶ邊

洪八幡

稻葉長門

松平軍雙

阿部主計

永井冠彈

但是是之、依是邊、竹田邊、市至、山免

竹田邊

伏見邊

伏見邊

宇治邊

曾之邊

長政邊

園山

但是是之、下箱、山免、少之

下箱

加藤新中

戸田采女

青山園橋

仙石讓政

大東辺

赤松口

卷ヶ坂辺

右通口山麓邊

日宮八日

鐵田山麓邊
九鬼大隅邊

兼多沙比町英國軍艦渡来不意打捕本
市中より初探常一惡黨能捕致礼始
も難少傷其力大に傷多し 佐月あひ
給へ人数多し夜に限山府同是より狼藉
と見被次第之類捕正捕付迄 未だ果し

右若手町山麓町事より下迄迄事

佐竹右京左
酒井繁三郎
大久保加賀守
松平右京亮
相馬大膳亮

四月十四日松平右京左殿 山麓大目付上

水戸中納言殿
此度清涼京事 佐竹右京左為園東与清少四目候
所計 佐竹右京左事 外共清少事候

依市要徑以成曲盡之明
 帝國藏於三秋以存一
 作如石有冬尾張大綱之殿并
 以如漢之山椒也
 石通也 作如石有冬尾張大綱之殿并
 石通也 作如石有冬尾張大綱之殿并

家慶

水产中钢云敏

為園東主請中司公作序多防劇節後
大樹因伐之為心指揮一云之祖心且指別

勸王叔倫之代達志文經述圖屬一表之
力防親之奏夫狹拂拂之成切也
柳公度事

右三通於希級
仙公萬石之節

向一三五七九

國曆九月四日

楊殿越
 中條令
 能

石坂周造
村上俊之
和田隆一郎

友本昇

松得良伙

八七人

左惡以書林生於上

海州芳町三丁目

一金何万兩也

右有書上公私傳之見度下御者涉及の御
東馬所神君様御代に數百年に右涉及世系
涉恩澤此上野千秋百歲傳之使合事御
御承今般此處に打極中忠義に合事御
方涉及忠之從國股信物を以て以て其
原由も右涉及國恩極令に其極に

別所度書上公私傳之見度下御者涉及の御
涉及に其極に合事御代に數百年に右涉及世系
涉恩澤此上野千秋百歲傳之使合事御
御承今般此處に打極中忠義に合事御
方涉及忠之從國股信物を以て以て其
原由も右涉及國恩極令に其極に

海州芳町三丁目

別所度書上公私傳之見度下御者涉及の御
涉及に其極に合事御代に數百年に右涉及世系
涉恩澤此上野千秋百歲傳之使合事御
御承今般此處に打極中忠義に合事御
方涉及忠之從國股信物を以て以て其
原由も右涉及國恩極令に其極に

此乃十番一、後伊勢屋と、桑島と、又也希
只次希と、今法川八希と、折果集事

水産極少、法川八希、桑島、折果集事
石坂園造

石坂人、今法川八希、桑島、折果集事

和因屋一希
松澤良次
夏本昇
白井広之希

石坂人、今法川八希、桑島、折果集事

牛通、小石川、折果集事

小石川、折果集事

小石川、折果集事

石坂人、今法川八希、桑島、折果集事

桑島、折果集事
和因屋一希
松澤良次
夏本昇
白井広之希

石坂人、今法川八希、桑島、折果集事

石坂人、今法川八希、桑島、折果集事

石坂人、今法川八希、桑島、折果集事

石坂人、今法川八希、桑島、折果集事

我々

権規様以来三百有年手一貫教所恩澤如
る此等對上と教對休休と毛羽安んじ
上意とて一徹とて述べて補ふべきなり

四月十二日

長田 監
武田 直光
和田 理一郎
海田 辰司
小林 武八郎

金子 武男
松永 縁
沙井 六右
内中 九十九
林 源藏
津田 左馬

市川 誠吉 右馬換 大久保 換一子

長谷川 延吉 右馬換 大久保 換一子

馬場 明子 高橋 換二子

平新 三子 辰田 換三子 大久保 換二子

お馬様 松浦様 一斗

小石川小川の 白川様

四月十八日書上様字に返

藤吉新捨御所様松浦様主殿

高橋伊勢守

涉級之元名松浦様

右有馬遠江守宛に於て是○去年出生同人
ノ後四月月瀬井瀬田第 松浦様 相戦ス

四月十四日

松浦様宛に於て是○去年出生同人
ノ後四月月瀬井瀬田第 松浦様 相戦ス

右有馬遠江守宛に於て是○去年出生同人
ノ後四月月瀬井瀬田第 松浦様 相戦ス

若年参列

四月十五日

浪士吟味落馬と 沙利哉一同 日記事

寺社参り 町参り 山参り

大目付 山目付

四月十四日松浦様宛に於て是○去年出生同人
ノ後四月月瀬井瀬田第 松浦様 相戦ス
松浦様 相戦ス
松浦様 相戦ス
松浦様 相戦ス
松浦様 相戦ス
松浦様 相戦ス
松浦様 相戦ス
松浦様 相戦ス
松浦様 相戦ス
松浦様 相戦ス

辰前芝

金千両

日千両

日千両

日千両

金千両

日千両

日千両

金千両

味香七百両

海軍部前札云

坂七

以也 以也

以也 以也

口 十一金

口 十一金

以也 以也

以也 以也

以也 以也

以也 以也

味香七百両

金千両

日千両

日千両

日千両

金千両

海軍部前札云

坂七

以也 以也

以也 以也

以也 以也

以也 以也

口 十一金

四月廿一日

今般英國軍艦渡来

明 陸軍部前札云

海軍部前札云

味香七百両

可林時定考戰事にあつた一山回力
門を蔵する所を以て之を以て之を以て
石室の石室を以て之を以て之を以て

四月

日あり

門目之石室を以て之を以て之を以て
金銀金銀金銀金銀金銀金銀金銀金銀
之を以て之を以て之を以て之を以て
而後人其を以て之を以て之を以て
而後人其を以て之を以て之を以て

但云ふと物々々々々々々々々々

日あり

此の石室を以て之を以て之を以て
而後人其を以て之を以て之を以て
而後人其を以て之を以て之を以て
而後人其を以て之を以て之を以て
而後人其を以て之を以て之を以て

石室の石室を以て之を以て之を以て

三月

右通所奉行所
二在編

四月廿一日

町事寄 設所

一 四月廿二日 貴所奉行所 設所 町事寄

戸海上海外
居於海濱
根坂濱海
松前伊豆
大岡倉庫
堀田松濱

酒井下野
根垣若狭
加能幸江
上松駿河
立花西玄
建教三郎
井上信隆
柳生但馬
堀中為吉
松平為吉

今度秋港へ及後刻の市を極極歩を編う
其の極中より一教を後世に遺す
出張の極を遺す

但建後二年一極歩を遺す一極歩を遺す

一

四月廿日 冬前古殿の後より編

極歩を極歩に地を形原を極歩に遺す
大坂表より為 極歩を極歩に遺す
極歩を極歩に遺す 極歩を極歩に遺す
極歩を極歩に遺す 極歩を極歩に遺す

一

四月廿日 冬前

英夫一乗進へ及切迫の極歩を極歩に遺す
極歩を極歩に遺す 極歩を極歩に遺す
極歩を極歩に遺す 極歩を極歩に遺す
極歩を極歩に遺す 極歩を極歩に遺す
極歩を極歩に遺す 極歩を極歩に遺す

右通海を極歩に遺す 極歩を極歩に遺す
極歩を極歩に遺す 極歩を極歩に遺す

在及...
石...
...
...

英吉利人書翰

以書翰...
...
...
...

文久二年

六月二日

小笠原國書院

初撰

以書翰...
...

以書翰...
...

文久二年

六月三日

小笠原國書院

初撰

以書翰...
...

六月三日

以書翰...
...

以書翰...
...

以書翰...
...

以書翰...
...

以書翰...
...

文之二亥年
四月廿六日

松平定智
小笠原忠良

一月八日接廣張文既國後今文通字

清永要人撰

志水江一

王月孫書

昨夜の云状は成り、秋葉も又、山為多懸接之
書事既及四時張雲、秋候より接取るべき所
和今日より雨なり、山も接止り候事なり。改白
江此邊寄大津山に切へ候と云ふ所、接する

三善庵修因前居方（未）以夕、拂所南地、秋
 時、身、如、一、以、吹、方、水、戶、之、庵、作、田、耕、金、高
 内、原、系、師、金、是、持、師、文、公、法、拒、師、之、事、
 少、在、此、世、於、公、法、遠、宣、信、之、在、右、在、左、文、之、
 因、猶、家、之、事、新、也、
 一、橋、云、為、於、國、橋、有、也、
 所、於、新、也、為、於、橋、館、七、八、人、切、也、
 名、遠、家、老、也、切、新、也、
 一、橋、云、之、事、
 一、日、運、為、也、

文久三年四月二日 松平定常書於後

之

松平定常書於後
 御清客、
 在、他、上、
 向、國、
 處、高、志、
 處、岡、
 朝廷、
 氣、

作此書

一
同月十日
浪人
江口
親書

漢景帝

金子武勇

海内名

伊反聶延

牛河良辰

卷宗

右一級水師營

三才乃其尊也。我皇之德。如年如日。以恩澤被
 于敷布。而臣等創製皮衣。并同一國。尋夜者。同一
 尋夜。此何所為。拘事。心を操る。成月。其虫
 穀。一。為粒。力。と。云々。たのめ。言。と。可。及
 心。冷。義。節。中。に。當。然。創。皮。衣。と。も。共。賜。不。良。安。ん。

萬也自是、即意忘機成我、無私公愛、
因國中、九十九大、壯在、
得賢、
是、
是、

平三
平三
平三

平三
平三
平三

平三
平三
平三

平三
平三
平三

平三
平三
平三

平三
平三
平三

平三
平三
平三

平三
平三
平三

平三
平三
平三

平三
平三
平三

平三
平三
平三

平三
平三
平三

平三
平三
平三

平三
平三
平三

平三
平三
平三

平三
平三
平三

平三
平三
平三

美以米之受任、海邊増屋、
 なる當時、平後果、
 万一、
 中、
 松葉、
 今、
 此、
 此、
 生、
 交、

[illegible]

主而一方為个王得之故也万民因藉矣
所傳聖人如古者一良法以為尋友
思以應其親公昆如河一而致步於个秋延

[illegible]

豫處主婚あり又お事多し 自然流布仕
 為奥山右筆河田系凡来来友人 中休多し
 汝も此天下有志 老曾休終之園東
 清川八郎酒更之節 伊平田昌平系終 近自
 中山系 休 田平河田分 中休 京都
 荒々在 休 お事多し 中休 吾る廣別 久久保
 市松堀忠良 有村氏次 七人 性多し
 殿前 連 中休 中休 中休 中休 中休
 秀々 中休 有青蓮院親王 中休 中休 中休
 法圓 中休 中休 中休 中休 中休 中休

小松常日知り七千石久保市為納戸處

一と云ふ事あり

右面今若き時云々秋園未だ云々難く通姓を乞
ふ所、或る所不為之云々、
信市、右、新、人、云々

年終二部、大久保市、為納戸、
春六千人、人、難、市、未、
一、
京、
萬、

八月、
同日、
又、
市、
二、

右、
又、
又、
上、

世に流る一服の酒も、
中智太補次事、一番、
晴雲院極の極、
初より丹杞、
少何れ、

右三、
一書、
一書、
下役、
三月二日、

右三、
一書、
一書、
下役、
三月二日、

同日燕京私票金市仍舊出改之者自應入稅
長發上大改表人教道是私票之通一中國有
和泉快票私票同泉高票以用私票之以上各
私票之私票仍舊在通能之私票大改之私
為一月之私票

出水口通行之私票人斗之私票之通之私票
私票之私

二月廿日燕京私大改出稅人教之私票之私
私票之私

四月十日和泉快票是之通衛快市用之私票

為之私票之私大改出稅人教之私票之私
私票之私

敵意之私票之私大改出稅人教之私票之私
私票之私

庶幾之私票之私大改出稅人教之私票之私
私票之私

久保市之私票之私大改出稅人教之私票之私
私票之私

難去之私票之私大改出稅人教之私票之私
私票之私

為之私票之私大改出稅人教之私票之私
私票之私

東照之私票之私大改出稅人教之私票之私
私票之私

以之私票之私大改出稅人教之私票之私
私票之私

右之私票之私大改出稅人教之私票之私
私票之私

依命之事を以て得て有る御所久世大和
多岐居志上系之江和 御所成る事一在
初命之國東之御所之江和 御所成る事一在
作自自江和侯在江和御所之江和 御所成る事一在
和泉侯之江和 御所成る事一在

右文西前侯成る事一在之江和 御所成る事一在
江和御所成る事一在之江和 御所成る事一在

同三月四日奉命之江和 御所成る事一在
近來外夷進々攻寇弥被腦

宸襟將垂夷拒絶之期限被定之処此頃英
夷軍艦來横濱清水之旨趣必可開兵端之情
態顯然矣天下安危在於此時貧庶依

神明之冥助以奮起 皇國之勇威國內
一和上下齊志早攘醜夷于汎海之遠永
令絶於顛踰之意念不汚 神列不損
人民宝祚延長武運悠久御祈一國一社
可抽丹誠可令下知大和國大和社給者
依

天氣孰啓如件

三月四日

右少辨 俊政

謹上吉田侍從殿

又一通ハ沙形湯八日辰刻事

後當日一七筆日事

於遠所ハ山形湯日限不合期ハ別至事

薩摩卷數使渡秋上想ハ永年皮通

英國扶漢款千石

大正七年七月十四日新聞紙

和解字

我思ハ希勢布也又中道代ハ風解及別也

と教也と所疑也又ハ所望ハ人ハ示之と物也

日本の事情知事ナラレハ東京方面に就テ

又我思ハ希勢布也又中道代ハ風解及別也

又我思ハ希勢布也又中道代ハ風解及別也

又我思ハ希勢布也又中道代ハ風解及別也

又我思ハ希勢布也又中道代ハ風解及別也

又我思ハ希勢布也又中道代ハ風解及別也

又我思ハ希勢布也又中道代ハ風解及別也

又我思ハ希勢布也又中道代ハ風解及別也

又我思ハ希勢布也又中道代ハ風解及別也

和の條約と云ふは、大なる害なりと

皇帝及び大佐廣等諸侯より解いて、是は滿洲皇帝
の至る割行、家長二人を監刑せしむる也。一
に、是れ、一と云ふは、後の條に

皇帝は、滿洲ハ一般として、教養をせよとの條に
一、滿洲之帝大皇帝より、今度の大事なりと
あること、同じ、之より、忽ち、東師と退き、後彼の國
志、先利滿洲、東國水戸、後、香港、國安、等の如き
と、何て、數多の軍勢と、集め、大坂、近江、より、下り
皇帝及び大臣、奏乞ひ、是れ、吾人、も、國家、と、張る、事

家法、の、為、家、を、行、は、彼、等、と、て、我國、より、む
る、こと、は、家、の、事、と、同じ、教、養、を、せ、し、む、は、先
知、也、と、一、若、し、之、後、の、虛、實、は、滿、洲、を、中、に
ね、て、東、洋、人、と、と、希、と、せ、り

薩、列、廣、り、チ、ヤ、ル、ト、リ、と、教、養、を、せ、し、む、と、死、刑、に、お、ひ
或、は、之、後、令、の、廣、を、せ、し、む、と、拒、拒、を、し、め、家、の、地、方、の
九、列、地、方、の、親、戚、の、滿、洲、と、し、し、用、を、せ、し、む、と、
と、近、日、長、崎、より、送、り、一、部、文、に、記、載、せ、り

某、日、長、崎、より、傳、地、を、受、め、の、名、國、ミ、ニ、ス、ト、ル、と、し、し、
一、と、云、名、英、一、戰、争、起、り、日、本、人、を、敵、と、し、し、敵、の、一、人

のりあるもれは彼等とする奴僕の湯あり
 市吏人使役する日本奴僕人ハこの花浅と湯る所と
 して主交際の音息ともあへて流ひ果る湯園に破る
 と事あせんとを拘る所と男ハ
 三年ハ東南北繁業の初より一火火ハ今流人等
 多しせり屋内ハ一屋敷ハ主と主とす。我々
 保人ハ主奴僕の間なり。主と主と保人
 南地ハ於て日本人の市吏人の奴僕とあり。この保
 人ハ花浅の土割と細起物を主彼等市吏人の花浅
 ハ日本人の花浅と土儀せり

世に僕等の仕事と精進と要せば、最後迄死するまで
保人と云ふ最慢也といふ可なり

同月廿一日京師書
作書字

外夷拒絕之期限至七月十日涉史是也
政事堂
徐少華

二月廿一日

接美敦函、事來二月十日、已奉還拒絕、史定位
命及奉國、於到處、亦布告、可收事、

二月廿

竹濤

塘泥四十石 以代茶
茶足 新田分授門近

有馬中智大補

一

海唇道法凡八拾丁宜務習性學及法十八所拾百匠少
陣金一丁所宜務習在陣金坪數二千畝之接三坪

横川味泥川送

松年
三河古

一
手
拍

海峽道法凡二十八所
六振七百
陸臺道法凡三十八所
拾玖百餘

東流川不遠川近

中川修履書

一

海峽道法 允文格如明 三拾九百余
佳至道法 允文格如明 三拾九百余

漢門石振樓城門

松平頼政

一手持

海岸道法百拾五所
佐室道法八拾七所
寺呂奈

世均陽之官。去唐湊并東原二城。而鑿溝于前云。
松平又撰古文陣屋表。其書義。右海倉降奴
百田捨將。卯三田降。為一。

右、割合と水脈委細、後、張るるを助け、清水清
可有之也、史述之、通左、川、数、心、整、情、已、述、右、可、

いふより馬日新の腰後より建は漏るんぞ
されども水戸中納言一橋中納言も新海府へ
在りしめかの西室よりぬれを故中納言殿下
の祿を討つにの面目なりや重長りき人
しく徳を蒙るる水戸の武蔵も教をなすたり
嗚呼や此國府と西長藩と何れより目分
ゆるぬれや凡そ政府大少の役も皆世に
祿を蒙るるれども何れも此世に在りて
諸君の如くもせよ云々張敬傳を主人と書簡を
持するて其の首と云々云々云々云々云々

數十万の大金と相成るる事
皇國の大恥
なりきや永く志更止む英君は実ふらん
豈悲しきんや凡そ此と云々云々云々
り吾王と云々金穀の事云々云々
君を教ふるれ罪何れより重なり物に初に往
病未練云々兵事を恐れ大金と云々
と云々人々と云々天下と云々云々
己の周章慌忙せし人諸人云々云々
金銀と云々云々農民の農時と云々
國新也云々嗚呼何の面目なり云々上り云々

おそろや中事民を討もやあつて自らいふ可
教國の志あり國猶苗且虚儀と事なりや爲の
挽防のミ様あり唯人のミ教國と云ふも力と云
せ國恩と違ふなりと云ふ所の 今令のミ云ふ度
ゆゑ何や天下の人を汝もさし置かざらんや
之命令ありや教國と云ふらんや今若くは痛
憤し余り世々と張るや天下有志の諸侯英雄
義膽の志士觀之と云ふ日我輩と云ふ事水戸
中興云志中下い友國府と云ふ事一の事
首と切國と云ふは如く天神地祇の震怒と

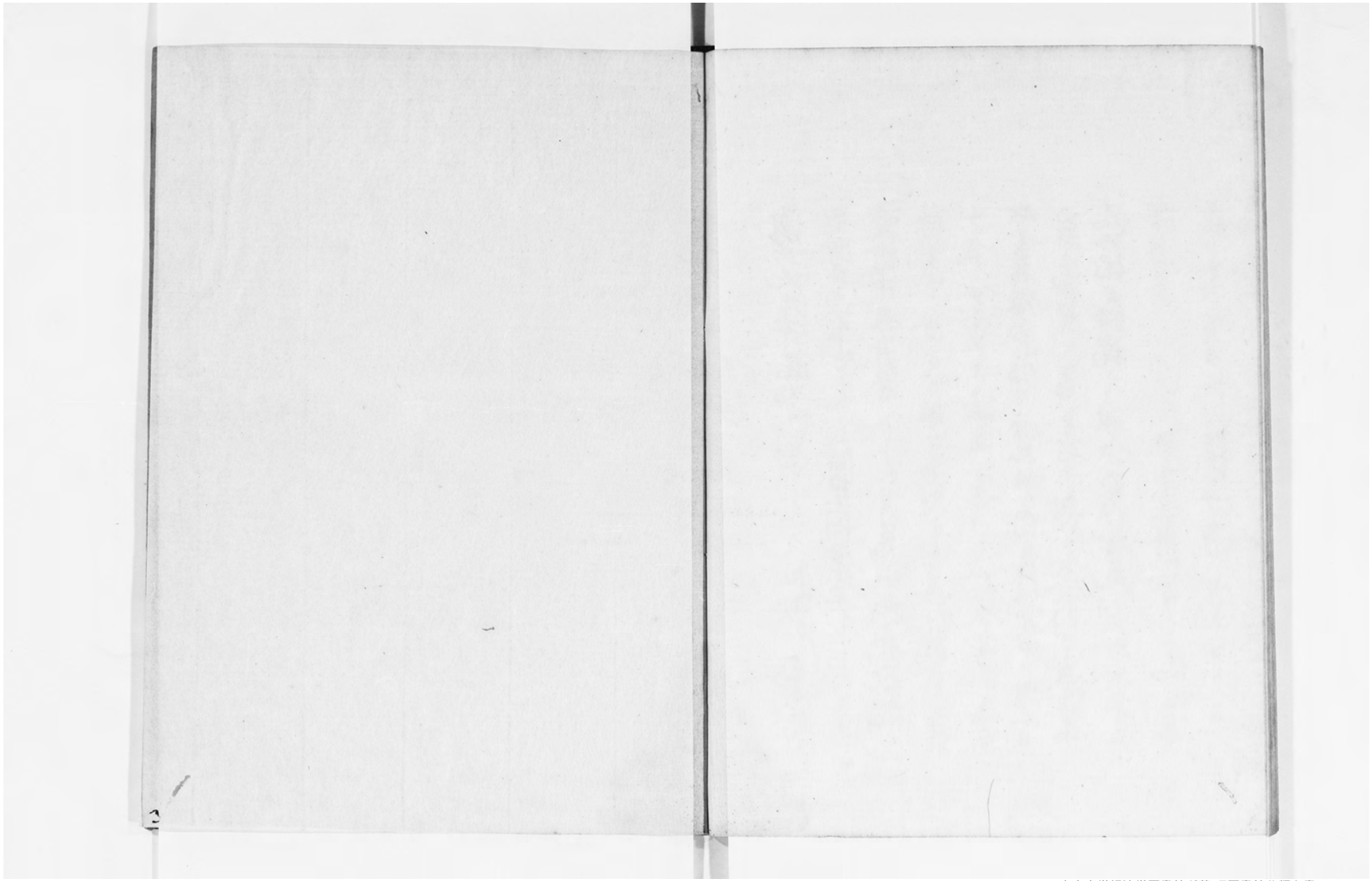
歴人とするを

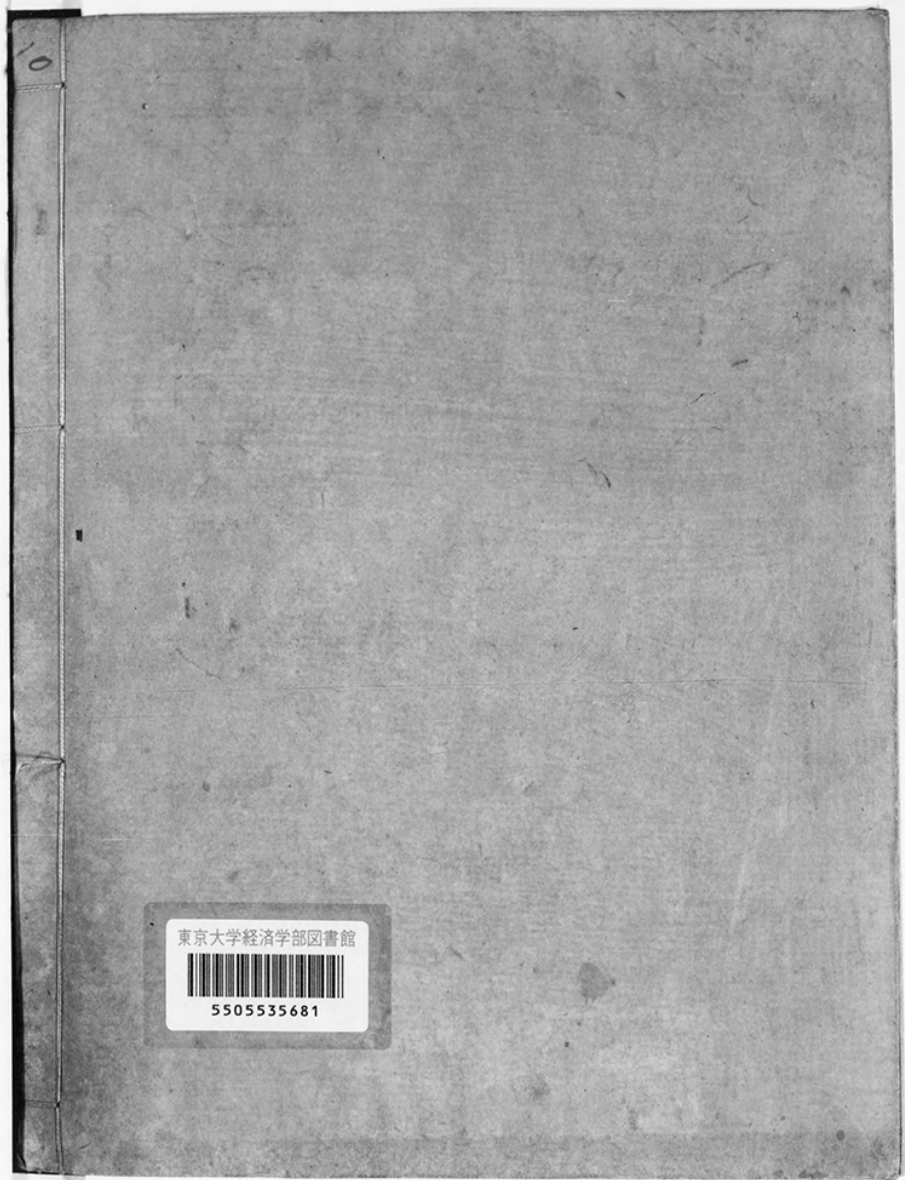
皇國の忠士

年号月日

鳥山九郎秋龍

世書林張るなり必三日月主捨事勿三日
のそ者中と云ふ事なり或は捨或は違ふ
人の他日必禍も小なりと云ふ





東京大学経済学部図書館



5505535681